

No.	プロジェクト名称	代表者	構成員	担当教員	プロジェクト実施報告
1	1キロ元気弁当 project	健康栄養学科 15KE075 出口 千夢	8	健康栄養学科 徳野 裕子	6～7月に献立を考え、8月と10月に試作品の完成と試食を行った。桐華祭で成果の発表とアンケート調査を実施し、12月に調査結果を基に試作品の改良と検討を行った。 ・地産地消を行うことで、地域のことに興味を持ってもらうことができ、同時に自分たちも地域の中で勉強していることを活かすことができた。 ・身体を作るための食事の必要性や、地域の人々がスポーツ栄養に対して何を知りたいかを学ぶことができた。 ・試食をしてもらうことで、どういったものが必要とされているのかを理解することが出来、バランスの良い食事を考えることができた。 ・ホームページに、自分たちの発信したいことを載せることができた。
2	プラスちゃん「みんな元気」プロジェクト	生活情報学科 14JF040 佐藤 佳奈	18	文芸文化学科 星野 祐子	2017年12月2日 第1部 交流会:11:00～13:00宇都宮大学「宇～太」、成蹊大学「ピーチくん」、首都大学東京「しゅーとくん」、本学「プラスちゃん」のお世話係がそれぞれの活動を報告し、交流を深めた。第2部 公開イベント:14:00～16:30埼玉県「コバトン」、新座市「ゾウキリン」、J:COM「ざっくう」、埼玉新聞社「サイのブン太くん」も参加し、来場者参加型運動会を実施。立教大学ボランティアサークルによるピエロパフォーマンスも好評であった。■プラスちゃんの知名度UP J:COMのスタジオを訪れ、本イベントの告知を行った。当日の様子もJ:COMで放映された。■準備期間について 企画の立案、参加団体へ依頼文の作成、イベントスケジュールの調整など、社会人に求められる任務を経験することができた。本プロジェクトは学園祭後に本格的に始動したため、時間的な余裕はあまりなかったが、それぞれ手分けをして業務を遂行することができた。■当日について ゆるゆる運動会では、小さな子どもたちと一緒に交流を楽しむことができた。アリーナ脇に設けた体験コーナーも好評だった。ただ、スタッフの数に比して、アトラクションの数が多く、お客さまに対して十分対応できない部分もあった。また、参加者アンケートより、写真撮影タイムが欲しかった、という意見があり、今後イベントを実施する際には参考にしたい。反省点もいくつかあるが、司会が場をうまく盛り上げていた点は良かった。教員志望の学生にとって、人前に立って場をコントロールする力や小さい子どもと触れ合う場は、成長につながる。
3	十文字学園女子大学発オリパラムーブメント～女子サーフィンを盛り上げる！～	健康栄養学科 15KE004 阿部 真由	9	カレッジ スポーツセンター 石山 隆之	① 2020東京のサーフィン会場である千葉県一宮市にて1泊2日の合宿を行った。この活動では、地元サーファーとのサーフィン体験などの交流を通して、オリパラへ向けた課題を見つけることや、シンポジウムのパネリスト招待などの交渉を行った。また、プロサーファーの大野さんと清水さんのご指導のもと実際にサーフィンを体験。最後には日本ランキング1位の野中美波選手にインタビューを行い、サーフィンに対する思いや、オリンピックに向けての努力などを聞くことができた。将来性があり、未来を担う高校生の声を実際に聞くことができた為、この思いが無駄にならないよう私たちからサーフィンを広げていきたいと感じた。 ② 全日本サーフィン連盟理事 広報委員会委員長である菊池幸秀氏をお招きし、サーフィン競技の基本となる知識を学び、「女性アスリートが活躍する社会」「大学生がオリパラを盛り上げる」の2つの視点から私たち学生には何が出来るのかを考えた。2020年の東京オリンピックに向けて2018年度には、他の大学の学生団体や競技団体、オリンピック・パラリンピックの組織委員会との連携運動を強化し、シンポジウム・フォーラムの主催校として計画の立案を行い、実行・報告までを行おうと考える。
4	くまプラススイーツ	食物栄養学科 14JD097 原 千里	11	食物栄養学科 金高 有里 小林 三智子	8月6～8日 熊本視察 いきなり団子とシフォンケーキの作り方を学んだ。10月28～29日 桐華祭 商品販売を行った。人気ベーグル屋さんである「輪粉」さんと「れんこんチョコベーグル」「ごまれんこん肉みそチーズベーグル」、人気パン屋さんの「コマメベーカリー」さんと「晚白袖メロンパン」を共同開発した。1月20日 ふるさと新座館でJAあさか野と共催で熊本復興支援イベントを開催し、商品販売を行った。毎週水曜日は必ず集まり、話し合いや状況の確認などをした。ポスターやポップなども一つ一つ心を込めてデザインし、イベント前日もみんなで一糸懸命準備をした。当日たくさんのお客さんが会場に足を運んでくれ、私たちの商品を買ってくださった。2018年3月14日 義捐金を寄付した(熊本県庁税務局税務課ふるさとくまもと応援寄付金に179300円熊本城の熊本城復元整備基金への寄付金に10000円)。熊本城を訪れ、現状を目の当たりにし改めて、私たちが集めた義援金を復興支援に役立ててほしいと強く感じた。
5	ユネスコ世界遺産和紙×小川七夕まつりサポートプロジェクト	文芸文化学科 17KG024 近藤 加歩	20	文芸文化学科 松永 修一	5月17日 十文字学園女子大学図書館にて一般公開七夕踊りと和紙イベント開催。小川町古寺地域の方々をお招きして、小川の和紙の歴史と文化ワークショップの特別講座を行った。一般公開し、伝統的な七夕踊りも実演いただいた。7月7日 小川町の手漉き和紙を使った和紙フォトグラフィワークショップ。写真作家の浅見俊哉氏をアドバイザーとしてお迎えして、和紙に感光材を塗り、参加者の思いでの品を置き感光させ作品にした。7月22～23日 小川町七夕まつりで商工会青年部、七夕まつり実行委員会のみなさんとのイベント実施。1000人以上の方にご来場いただき大盛り上がりだった。学生スタッフの司会とパフォーマンスによる子どもイベント、バルーンリリースも500人規模の会になった。
6	小川町いきいきプロジェクト	児童教育学科 14JB028 澤紙 菜穂	14	児童教育学科 狩野 浩二	7月22日地元の人から小川町について詳しい話を聞いた。2月2日こんにやく作りとチャリティー餅つき大会前日準備、2月3日チャリティー餅つき大会を行った。私たちが提供した柚子味噌こんにやくは、こんにやく芋から作ったことに興味を示すお客様が多く、大繁盛だった。餅つきは普段行う機会がないので貴重な体験になった。12月19日そば作り。小川町腰上地区にて、年越しそばを地域の方々と一緒に作った。昨年と今年の売上金の合計を新座市に寄付した。また、昨年作成した「こんにやくのひみつ」の絵本の改訂版を作成した。今までの活動を生かし、より社会貢献ができたと思う。地域の方々と関わることで主体的な行動力や社会性・コミュニケーション能力を身につけることができた。